

泉

いずみ

―目次―

表紙 「防災講演会」

百折不撓

東海地震が起きたら

車椅子

ネコ通信交流

連載「私の出会った神様たち②②」

遺言⑤

掲示板・お知らせなど



森先生講演風景

撮影：中野静梨奈さん（高一）

天災を 人災にせぬと 東北忌 博子

花粉の時期がやってきました。娘は去年から花粉症に悩まされ、この時期は鼻水と目のかゆみに襲われ、夜も寝られない日が続きそうですね。もうっ！寝れないし！って夜中にプリプリと怒っています。確かに寝られないのはかわいそうだと思います。

さて、今年の五月二十八日(日)に映画上映会を安泉寺でやるかと企画しています。久しぶりの映画上映会です。今回は、午前午後の二部制。キッチンカーも手配して、一日お寺で過ごせるような環境を作れるといいなあと考えています。

上映映画は「夢みる小学校」です。「きのくに子どもの村学園」という小中学校を中心に描かれたドキュメンタリー映画です。子どもファーストで、様々な体験学習を通じた授業を展開しており、テストもない、通信簿もない、宿題もないという、日本の当たり前前の「学校」という概念を根底からひっくり返すようなあり方が、映画を通してノンフィクションで映し出されています。あまり話すとネタバレになってしまうのでこのあたりにおきますが、ぜひ皆さん、お時間の都合を合わせ来ていただけると幸いです。

今、うちの職場では空きスペースを活用して畑を作り始めています。まったくの素人で、何から手を付ければ良いか分からないので、ベテラン職員や保護者の方々に聞きながら、夏になると雑草で手が付けられなくなる場所を、少しずつ開拓しています。まずは、草の根を掘り返す！これが大変です。土筆やスギナが良く生える場所は地中深くまで根が伸びています。それをスコップや桑で掘り起こしては、根っこを引っっこ抜く。ちよっとしたスペースですが、二時間以上かかりました(汗)。その後、小さな耕運機で土を耕していますが、まずは粘土質の土を耕運機が上手く進んでくれず、右往左往しながら耕していると、石がゴロゴロと出てくる。一つ一つ石をどかして、やっと石灰を巻くことができました。

しばらくは、土を作るところに時間を割く予定。何度も何度も耕して、野菜が育つ土を作ろうという途中です。

以前聞いた話。「植物も野菜も、直接手を加えることよりも、野菜の種類に適した、土、水、光や温度、湿度や風向きなどの環境を整えていくことの方が大事」ということです。この話は、決して野菜だけの話ではないと思います。人を育てる「人材育成」。とても難しく、常に悩むところですが、「育てる」という視点と「育つ」という視点が必要だという事に気づかされました。子どももしっかり、職場の仲間もしっかり、自分自身もしっかり、「成長」を支えることは、決して対象となる「人」だけに何かを仕向けていても、あまり意味がなく、周りの環境を整えていくことも大切なんですね。子どもに「勉強しなさい」や「もっと賢くなりなさい！」と言い続けても、言われれば言われるほど勉強したくはなくなるものです。親に言われるから、上司に言われるから。という理由で勉強しても、それって学んだことになるのかな？「叱られないため」や「言われないうようにするため」が目的になった勉強は、なかなか身につくものではないですね。それよりも、「学びたい」や「学ばなきゃ」と自発的に出てくる時こそ、人は学ぶ姿勢になるのでしょうか。そのような動機付けは、きつと置かれている環境もすごく影響するのではないのでしょうか。

学校でよく見かける、綺麗に並ぶ「整列」。綺麗に整列することにより前の人が邪魔で、前方で話している人や何かをやっている人が見づらくなるという現象。あれって、前方が見やすくなる場所に個々が考えて自由に場所を動いたほうがよっぽど合理的じゃないかな。でも、整列からはみ出すと、先生に怒られるという。。「なぜ整列が必要なのか？」を疑問にも思わずに、ただただ先生に言われるがままに「これが正しい」と刷り込まれるような教育よりも、「なぜ整列が必要なんですか？」と疑問に持ち、考え合えるような場がある教育のほうが重要なんだと思います。*エピソードの一部は「夢みる学校」から抜粋

◆雨上がりの晴天に恵まれ、二月十一日午後、森勇一先生をお招きし、表題のテーマで講演会を行った。◆果たしてどれだけ参加していただけか、雲をつかむ話。でも、ふたを開けてみると、約六十名ほどの参加者があった。駐車場は満杯。本堂は熱気に包まれた。◆お話の内容は、ずばり、濃尾平野の液状化の状況。地震が起こったら、土地によって、必ず液状化が起きる。先生は津島高校赴任当時（1981）、地学部生徒と共に、1944年に起きた東南海地震の様子を住民に聞き取り調査を行った。その範囲は広大で、正確だ。そして、その地域を地図に落とし込んだ。◆でも、公表はしなかった。当時、その地点には、工場や住宅がすでに建っていて、パニックになることは必至。同僚からは「やめとけ、刺されるぞ！」などという忠告があった。◆数十年経って、先生は防災の観点から、公表に踏み切った。それがこの頁の図である。ポイント地点は、明治時代に埋め立てた旧佐屋川跡地と、日光川周辺に集中している。

◆砂地で、間違いなく液状化が起きる。しかし、避難はできる。できるがとも時間がかかる。総合的に判断して、家が無事ならばそのまま残るか、避難するかを決めるべきだ。◆東名阪の高速道路の基礎は地中40メートルまで掘り進んだ。土砂には多くの貝の化石が含まれていた。◆濃尾平野は深く基礎を打たないと岩盤に到達しない。このことを先生から聞いて背筋が寒くなった。◆東日本大震災の時、東京デイズニールランドは全く沈下しなかった。周辺はひどい液状化が見られた。徹底

した地盤改良工事が功を奏した。◆当日は津島高校の教え子が沢山参加した。以前、森先生のクラスは三分の一ほどの生徒が教員になった事例は、先生のカリスマ性を証明している。講演の前後は同窓会だった。◆感想を二つダイジェストで掲載する。

◆恐れることで、対策・準備に取り組めると、前向きに捉えたいと思います。自分でできる液状化対策を探索したいと思います。

◆果たしてこの大きな被害想定に対し、どこまで対応できるのだろうか。非常に難題なことが多すぎる。

◆前者は、災害対策に熱心な一主婦の意見。後者は行政で、危機管理を担う専門職員の感想だ。これを見て、私は前以上に背筋が寒くなった。ええい！負けるものか！



◆老人クラブの一日研修があり、京都の宇治の平等院と伏見稲荷を訪ねることとなった。門徒の方が参加され、足がやや不自由なので、バスに車椅子を積んでいくこととなった。あいにくの雪の後遺症で、八時に出かけたのは良いけれど、食事予定のホテルに着いたのは午後一時、さすがに食事は美味しかった。その後、時間の都合で宇治の平等院の拝観はカット、伏見稲荷だけ参拝することになった。◆バスプールから稲荷までは一キロ以上ある。私は彼を車いすに乗せて危なっかしく歩き始めた。歩道との段差が大きく、車輪を踏み外したら、乗っている者は車道に放り出され、とても危険だ。おまけに、人人人の行列で、なかなか進まない。◆さすがに車椅子で参拝するのは私たちだけ。でも、障害がある人もちゃんと旅行ができるようにするのが今は大切だ。踏切を二つも渡り、やっとの思いで社殿にたどり着いたが、そこからが大変、スロープはあるものかなりの急坂だ。◆意を決して、上り始めたが、その負荷はかなりのものだった。とその時、椅子が急に軽くなった。押してくれる青年が現れたのだ。彼はしばらく私たちを見守り、帰りの急坂も後ろ向きに降りる私たちをサポートしてくれた。◆Your father? (あなたのお父さん?) 彼の問いに私は応えた。No, my friend. (いや、友達だよ) すると、彼が私にこう言った。Oh, we are friends. (私たちはもう友達だね) と。彼は台湾からツアーで来た青年だった。私は彼の一言ですっかり心が温まり、ささやかな国際交流ができたことに喜びを感じた。

◆近年、老人クラブが危機である。立田地区で、解散したクラブが沢山ある。高齢者が増えて、ますますその意義が深くなるはずのクラブがなぜこんなに潰れていくのか? 「名前が悪い」「行事がつまらない」「役員をやりたくない」◆安否確認や運動能力のアップなど、さらに高齢者のコミュニケーションを確保する上でも、老人クラブの活動は欠かせない。◆最近の風潮として、個人主義が行き渡りすぎ、「他人と関わるのは嫌、自分も他人に迷惑かけなければいい。」などとおっしゃる人のなんと多いことか。(チコちゃん) ◆しかし、いざ大災害が起こった時、そんなことを言っていたら、お互い誰も助けられなくなる。日ごろから適度のコミュニケーションの力を老人クラブで磨いておくべきだと私は強く思う。



京都 伏見稲荷にて

◆孫の「ねこ通信」のファンの方から、素敵なはがきが届きました。ご本人の了解を得て、皆さんに披露します。孫の返信も読んでください。（老僧）

★ 「ネコ通信」のファンで早川と子と申します。神戸のおばあさんです。前から、美道さんや博子さんと仲よくさせてもらっています！

「ネコ通信」編集長 野呂小蓮 さま

いままで、色んな名前ネコちゃんが登場。おぼろ小蓮さんほどのネコにもお話し接しておられる感じが嬉しいです。いつも楽しく通言を読ませていただきます。

ふーくんとなつちゃんの性格のこと「なるほどね」と思いました。その後、はつちゃんはふーくん、おうちと仲よくなりました。

私がかいた絵です。

神戸のおばあさんへ
ネコ通信を読んでいただきありがとうございます。

わたしはネコが大好きです。神戸のおばあさんも好きです。今、ふーくんとなつちゃんはお外が大好きです。前は、ずいぶん遠いところに行ったり、夜まで家の中に帰ってこなかったりしました。それとびよちゃん、ふーくんとなつちゃんも仲良くなりました!!!

今度はおばあさんに神戸に行ってもらいます。その時に、お話ししたいです。

お元気でいてください！

ネコの絵もありがとうございました。

すごく上手だったです。おうち

二月十七日(金)

野呂小蓮(おひな)

母の愛①

◆目に見えないお土産とは何だったのでしょうか。それは死んだ母のお話でした。名古屋の新出来町のうちの裏庭の離れで死んでいった、本当の母の話でございました。◆「あなたのお母さんは『結核』という病気でした。結核は不治の病とされていました。人にうつる病気で、特に子供にはうつりやすかったです。四つの幼児などには最もうつりやすかったです。◆当然、あなたのお母さんは病院に隔離されていなければならなかったのですけれども、お父さんやお医者さんに一生懸命頼んで、『どうか私をどこでもいいからうちの物置きでもいいから置いてほしい。』と頼んだのです。『病院に入れられれば、こんな病気だから、生きては出てこられないだろうし、面会に来てくれることもないだろうし、病院に入るといことはそのまま子供と永久にお別れすることになってしまう。』（※コロナと同じ）それは余りにも悲しいことだから、せめて子供の声の聞こえるところに私を置いていただけないか。物置きの隅にでも置いてもらえれば、子供が泣いたり笑ったりする声だけでも聞こえてくるのだから、声だけでも日一日と成長してゆく様子を、母親として味わわせてほしい。◆そのかわり、子供が自分を慕ってきましても、絶対に中に

入れないし、絶対手も触れません。だからお願いします。』とお母さんはお頼みになったのです。◆お父さんもお母さんの気持ちを感じてくれました。物置きといふこともできませんから、裏庭に離れを建ててあげたけれども、離れが箱のような建物で窓が高いところについていたというのは、隔離された病人がいたのでああいふ建物になっていたのですよ。◆あなたには何も言わなかったけれども、あなたが幼稚園から帰ってくると、おばさんはまずあなたのかばんをとって連れていったのは縁側でしたね。（続く）





安泉山 信正寺

◆敏彦氏は何と熱い心を持ち合わせているのでしょうか。近づくとやけどしそうです。しかし、この情熱があればこそ、バブルがはじけた後も、事業は少しずつ業績を上げていったのです。

◆敏彦さんの言葉で「同志愛」というのが語られています。

「家族愛」と言い換えてもいいでしょう。会社を家族と違って、社員のことを大切にされた敏彦氏の思いが伝わってきます。◆また、社員も敏彦氏の人柄に惹かれ、前向きな姿勢に魅力を感じ、会社のために尽くすようになったのだと思います。◆社長と社員がお互いに相手を思いやり、同じ方向を目指す。双方方向の愛情がなければ、家族愛とは言えません。

◆敏彦さんは、そのことを、信正寺を開基したご両親から受け継いだと思います。(続く)

役員報酬の中から、生活費以外はすべて会社に投資する。それを7〜8年続けたわけですが、やはりそれがいけばお金を残す要因になったと思っています。

自分の身銭を切った生活をするれば、あらゆる諸経費(無駄な経費)をすべて節約できると改めて感じ、預金を増やすことに専念することになりました。

7〜8年ほど経過すると、その増資したお金と利益額で約1億円のお金が残ったのです。すると都市銀行の支店長から「東京に我が行の不良債権があるから購入しないか？」と声かけがあったのです。ちょうどバブルが崩壊した時期でした。そこから具体的に東京進出を目指すことになりました。

しかしかんせん、北海道の小さな会社ですから、お客様もない・人もいない・お金もない、まだまだ何にもないわけです。それでも努力を重ねておりましたら、徐々にお金がめくれ

るような状態になりました。すると優秀な人財が集まり、お客様に誠心誠意、真摯に対応させていただくことで、お客様がお客様を呼び……今日に至ります。

NBCの諸君。
なんとしても大切なことは「同志愛」。

仲間同士の愛情が経営の基本でなくてはならない、ということをお伝えしたいと思います。

「同志愛」こそが強いNBCを生んだものと思っています。

△2022年3月25日
本人肉声より書き起こし▽



3月の行事予定

和讃講

一日(水)

ハザード会

五日(日)

震災追弔会・勿忘の鐘
環境保全会代表会

十一日(土)

老人クラブ総会
写真クラブ例会

十八日(土)

文芸クラブ例会

二十三日(土)

被災地研修

二十八日～三十日

今月の掲示板

空白はからにあらざと手帳見る
白は自由に満ちいるひと日

中日新聞一月十五日朝刊七頁

仏教の空(くう)は無ではありません。あらゆるものを生み出す魔法の空間です

こずめのほしり

◆来たる三月二十八日から三日間、安泉寺ハザード会のメンバー十名が、福島・宮城を巡る、被災地研修に出かけます。二〇一九年から四年ぶりの再開となります。この間、何度も下見を重ねました。万全の準備をして出かけます。今回は坊守の麻子と、孫の小蓮も参加してくれます。多くの学びを経て、将来災害に強い愛西市民が育ってくれることを願ってやみません(老僧)

◆三月十一日、午後二時より東日本大震災の追悼法要を行い、四十六分に勿忘(わすれな)の鐘を撞きます。土曜日なので、是非皆さんご参加ください(老僧)

◆二月の下旬、洗濯物を干していると、鳥の鳴き声が聞こえてきました。「チュチュウのチー」と鳴いてます。私には「地球の危機！」と聞こえました(老僧)

Kさんの絵手紙

